



は し か み

# 階上的生活

階上人が伝える、  
楽しい階上の暮らし。

2016 階上町勢要覧

HASHIKAMI LIFE



## 自然と暮らしの 質の高い階上で子育てを

浜谷——人口減少問題が取りざたされています。町では地方版総合戦略として、「人口ビジョン」や「階上町まち・ひと・しごと創生

対談

# 階上町で魅力的な ライフスタイルを。

浜谷豊美（階上町長）

大谷真樹（八戸学院大学学長）

総合戦略」の案を策定しました。戦略では100を超える事業を新規・拡充・継続の3つに分けて取り組んでいるところです。

大谷——私は八戸市などの総合戦略に関わったりしているのは、人口という数量的な目安よりも暮らしの質に指標を求めなければいけないということです。階上町の魅力とは、

景色とか食もありますけれども、暮らしそのものではないのかと。それは指標化しづらいですが、我々のベクトルを、単に人口とか経済指標ではなくて、暮らしの豊かさというものに向けて、階上の暮らしもまた変わってくるのかと、漠然と思っています。

浜谷——まさにそのとおりです。豊かさの根幹は何か、ということこ

ろからスタートしていかないといけません。人口だけにこだわらない形で対症療法ではなく進めていきたい。第1次産業の高齢化、後継者難もあります。一番のスタートは子どもですから、

子どもをしっかり育てていくという部分をこれから引き上げていきたいです。

大谷——そこはいいですね。まちづくりも、便利な町なのか、暮らしたい町なのかによって違うと思うのです。暮らしたい町とは教育環境がいいとか教育の水準、主婦はそういうところを見るのですね。そうすると階上は有利だと思います。

## 階上の ライフスタイルを売り出す

浜谷——階上町は階上岳・階上海岸・巨木などの自然や、寺下観音・えんぶり・階上早生階上そば・いちご煮などの人文資源に恵

浜谷豊美町長

まれ、山・里・海がバランスよく立地しています。そこに多くの地域づくりに関わる組織・団体・有志が、階上の魅力を発信しています。

**大谷**——この前、アメリカのポートランドを見てきました。よく、よそ者といいますが、町がどんどん変わっていく過程では、外の人が入ってきて、もともと地域にいる潜在力を持った人を巻き込みながらまちづくりをしている。ポートランド市の行政側に聞いたら、日本の自治会みたいところに権限を与えてどんどん提案させる。それまで市で計画していたものをグループワークに置き換えて、リーダー格を中心に地域をまとめていくように、トップダウンからボトムアップに変えたみたいですね。それで、ここ10年で町が変わったと。ユニークなまちづくりに対して、また新しい人が次々と移住してきて、町が活性化しているということですね。

**浜谷**——そういうのを期待して漁業でもできないものかなと思ってるんです。どこかの船に乗ったりとか、漁業をやるところで仕事を習いながら趣味の暮らしもするようですね。

**大谷**——前から提案しているのは、半農半Xです。半分は家の畑をやって、夜はグラフィックデザイナーとかコンピュータとか、半分サーフィンをやりながら、半分は漁業とか、階上はいいものを持っていますから十分可能です。食とか農業とか断片ではなくて、暮らしとして織り混ぜたもの、階上のライフスタイルを売り出していったほうがいいと思います。



大谷真樹 八戸学院大学学長

## 生活文化と 観光のタイアップ

**浜谷**——階上の生活文化観光として、まちあるきでユニークなコースを回ったり、最近は大谷・古木めぐりも増えています。みちのく潮風トレイルでバックパッカーの人たちが目につきますし、そういう方にきちんとした着地型の情報を提供して、町のおいしいものを食べたり見たりしていただいて、それが階上への移住につながっていくように一歩ずつやっていければと思います。

**大谷**——階上の生活として、どう情報を発信をするか。しかも、そういうことに敏感な層ターゲットとなる人々にどう伝えるかですね。

**浜谷**——多くの観光客は、八戸市の天然

芝生地・種差海岸までは訪れます。そこから引き返すのではなくて、同じ国立公園三陸沿岸ということで階上海岸へ足を延ばしてもらおう。磯がこんなに間近なところもそうはないですから。また、町のトレイル沿線に位置する商店やお食事処、個人の方々が「おもてなしエンジェル」になっていきます。色々と面白い話をしてもらったので、また聞きたいと再訪する人もいるようです。階上の生活そのものを伝える「おもてなしエンジェル」は、これからも増えてくれることを期待しています。

**大谷**——広域で考えることも必要です。八戸で働きのながら、理想的な階上生活をどうぞと。今、八戸・久慈道で車のアクセスもさらに整備されて、20分もあれば職場に行けるのでワークライフバランスがいい。畑があつて、

週末には子どもと一緒に土をいじる。階上には暮らしを豊かにするパーツはいっぱいあるので、暮らしそのものを演出して、どう見せていくかの広報戦略が大切です。

**浜谷**——地域に活力を見出すには、唯一、ここにしかない当地独自の生活文化に支えられたハイセンス・少量・高単価の地域ブランド商品や生活文化観光を売る、お金と遊休資産をもっと地域内でぐるぐる回す、などの発想が必要といわれています。

階上町でも現在、階上ブランドの構築などを目的として、「浜の活性化」に向けて階上産地協議会の皆さんが、6次産業化などについて真剣に検討を重ねているところです。

**大谷**——地域資源を生かすというのは、大きい行政のところよりも規模の小さいほうがフットワークよくやれる。これは、という人に声をかけやすいし、ほどよい町の規模感というのがあります。階上ぐらいの規模だと、これは誰々さんにと届きやすいと思うし、元々豊かな地域資源がある。そういう意味では、人も里山・里海の資源も全部が豊かですね。

## 階上町と 八戸学院との連携

**浜谷**——10月に第2回階上岳チャレンジヒルクライム大会が開催されました。階上岳の鳥屋部登山口前からつじの森キャンプ場までの約6・4キロ、高低差411メートルのコースを駆け上がる自転車レースです。大谷学



長は、ジュネーブからニースまでの830キロ、ツールドフランスのコースの一部を走破する自転車レースに参加されていますが、幅広い年代の人が楽しめるレースもいいですね。

**大谷**——まだ2回目ですが、きちんとやれば大きいイベントになりますね。自転車に限らず、階上岳を使った健康増進の日常的なイベントをどんどんやったほうがいいと思います。

奈良県に金剛山という階上岳ぐらいの山があつて、毎朝登るお爺さんたちがいるのです。みんなで皆勤賞を競い合つて、町から表彰さ

れたものを首から下げているのですよ。毎朝、日の出を見に行くとか、ああいうのをやれば健康にもいいし、お年寄りの生きがいにもなるのですね。それで1年間登った誰々さんというように表彰するとか。

**浜谷**——環境省のほうからも8合目の大開平に通年24時間開放の休憩所を整備してもらいました。登山コースも脇にそれないように目印や看板も整備するので、安心して登れることも前面に出していきたいですね。

また、町では平成25年3月に八戸学院大学と連携協定を結び、健康レシピの作成やジェラートの開発、イベント運営などを実施してきましたが、平成27年3月に、八戸学院大学・八戸学院短期大学と新たに域学連携協定を締結しました。連携の内容は、健康づくりや町PR事業、がきゅうさん臥牛山まつり・いちご煮祭りへの協力、健康レシピの普及や高齢者の体力測定の実施、ポスターと顔出しパネルのデザイン、イベント運営等々です。

**大谷**——あえて域学連携といわなくても、ごく普通に、地域の大学として十分に活動しているなと思つています。行政区域は八戸市になっていますが、うちの下宿生は階上町に多く住んでいて、この辺は学生のキャンパスの一部ですから。

**浜谷**——今後もそれぞれが保有する情報、ノウハウ等を用いて協力し合つていければと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

\*平成27年12月16日収録

【対談】

階上町で魅力的な  
ライフスタイルを。—————2

浜谷豊美階上町長×大谷真樹八戸学院大学学長

【レポート】

階上の生活—————6

- ①階上町の“海業”には、たくさんの可能性がある。……………8
- ②「わっせ交流センター」を拠点とする地域コミュニティづくり。……………12
- ③階上町は“豊かな生活王国”を目指しています。……………16

【特集】

東日本大震災階上町の記録—————20

階上ベーシック—————29

- ①歴史と文化財……………30
- ②観光と特産品……………31

【ズームアップ】

“おもてなしエンジェル”と考える  
階上町の着地型観光の形。—————32

町内案内イラストマップ／交通アクセス—————34

【第4次階上町総合振興計画】後期計画  
ゆめ みらい 心ときめく ふるさとづくり—————36

- 基本理念・将来像／基本目標1……………37
- 基本目標2・3……………38
- 基本目標4・5……………39
- 基本目標6・7……………40

【行政】

行財政改革の徹底—————41

【議会】

町の明日を築く—————42

【資料編】

TOWN DATA—————43

